



福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)

- 目標1 自分から読書に親しめる環境づくり
- 目標2 自分から読書に親しめる機会づくり



福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)の目標1「自分から読書に親しめる環境づくり」では、『すべての子ども』が本を読みたいと思う時、身近なところに、その子どもに合う本がある環境づくりを進めていくようになっていきます。また、目標2「自分から読書に親しめる機会づくり」においても、『すべての子ども』が、保護者や身近な大人、友達なども一緒に読書を楽しめる催し等を開催し、子どもと大人が読書の楽しさを共有できる機会づくりを進めていくようになっていきます。

そのために、

目標1「自分から読書に親しめる環境づくり」

- ・ 障がい等のある子どものニーズに合った読書環境の充実

- <家庭・地域> 障がい児通所支援施設等における子ども読書環境の充実
- <学校> 特別支援学校など多様な学びの場における読書活動及び環境の充実
- <図書館> 障がい等のある子どもの読書活動を支援する環境づくり

目標2「自分から読書に親しめる機会づくり」

- <家庭・地域> 障がいのある子どもへの読み聞かせの充実
日本語を母語としない子どもも楽しめる読み聞かせの機会の提供
- <学校> 障がい等のある子どもの本と出会う機会の充実
- <図書館> 障がい等のある子どもと本をつなぐ機会の充実

を各担当局や教育委員会(総合図書館)では取り組んで参ります。

今後、福岡市では、障がいのある子どもに対応する児童図書等の充実を図るとともに、電子図書館でのコンテンツの提供、団体貸し出しや郵送貸出等の制度の周知及び、点字図書館等の資料の充実を図ります。また、学校図書館支援センターでは、本年度より特別支援学校の支援を行い障がい等のある子どもが読書に親しめる環境と機会の充実を図って参ります。

＜福岡市立点字図書館＞



一般社団法人 福岡市視覚障害者福祉協会が管理運営を行っている福岡市立点字図書館が福岡市総合図書館内に併設されているのをご存じでしょうか。

点字図書館では、点字の本・声の本（録音図書）の貸出や対面朗読サービス（お手持ちの資料を音訳者が「目のかわり」となり1対1で読みあげるサービス）や製作相談（身近なちょっとした文章や資料を点字や音声にする相談）などの読書相談も行っています。

＜福岡市立点字図書館ホームページ＞

<https://www.fukushikyo.com/tenji/>

＜拡大読書器＞



文字を大きく映し出すことができます。

＜デジタイズ録音図書再生機器＞



音訳図書（CD）を聞く機器です。

＜点字つきの絵本＞



文字と点字で、表記されています。

＜点字本＞



点訳した本です。

<3D コーナー>



世界遺産等の建築物を3D 模型にすることで、それらを触ってイメージすることができます。

<目についての絵本コーナー>



令和元年6月に「読書バリアフリー法」が、公布・施行されました。この法律は、「障害の有無に関わらず、全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現」に向けて、国や自治体の責務を定めています。

<オープンプレイライブラリー>



子ども達を対象に、視覚障がいのことや点字図書館について、知ってもらうイベントです。

<点字体験コーナー>



「すべての子ども」に、読書の環境と機会の充実を図るために、教育委員会では、学校司書の配置や学校図書館の整備など、子どもの読書支援に努めています。

福岡市には、障がいを持ったお子さんや日本語を母語としないお子さん等、十分に読書に親しむことができないお子さんが、多数、居住しています。少しずつではありますが、そのバリアを除いて行きたいものです。 【須藤】



9月のことと人

9.8 世界識字デー

この取り組みにより世界の識字率は着実に向上していますが、世界には、読み書きのできない人が約8億人いると言われています。そして、その3分の2が女性です。識字率が低い国においては、国の経済発展にも影響を及ぼしています。

9.29 中秋の名月

旧暦8月15日～16日の夜(八月十五夜)の月を「中秋の名月(ちゅうしゅうのめいげつ)」と呼び、古くから月見をして美しい月を愛でる慣習があります。日付は「秋分」の前後半月の期間の中で変動します。十五夜の日は、必ずしも満月ではありません。

星 新一 (1926.9.6～1997.12.30)

膨大な作品量でありながら、どの作品も質の高さを兼ね備えていたところから「ショートショート(掌編小説)の神様」と呼ばれて、小松左京・筒井康隆と合わせて「SF御三家」と呼ばれている。森鷗外は母方の大伯父にあたる。

中川 季枝子 (1935.9.25～)

北海道札幌市にて生まれる。代表作に『ぐりとぐら』『そらいろのたね』『ももいろのきりん』など。また、作詞家としても『となりのトトロ』のオープニングテーマ『さんぽ』等数曲のイメージソングの作詞を手掛ける。

トルストイ (1828.9.9～1910.11.20)

ロシア生まれ。19世紀のロシア文学を代表する文豪である。代表作に『戦争と平和』『アンナ・カレーニナ』『復活』などがある。民話を題材とした童話「大きなかぶ」等も有名である。

H・A・レイ (1898.9.16～1977.8.26)

ドイツ生まれ。妻と『ひとまねこざる』シリーズを描いた。伸びやかで親しみやすい画風で、幅広くの年齢層に親しまれている。没後、この作品を原案として、『おさるのジョージ』が制作された。

図書館員のひみつの本棚 第 208回

今月は偏見にとらわれていないか気づかせてくれる本を紹介します。

『マイロのスケッチブック』

マット・デ・ラ・ペーニャ／作 クリスチャン・ロビンソン／絵 石津 ちひろ／訳 鈴木出版
2021年 ¥1500(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★☆☆ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年★★☆ 中学生★☆☆

高校★☆☆ 一般★☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

毎月、最初の日曜日、マイロはお姉ちゃんと 2 人で地下鉄に乗ってお出かけをします。お出かけは緊張や不安、わくわくが入り混じり、そんな気持ちをスケッチブックに乗客の絵を描くことで紛らわすマイロ。薄暗い駅で降りたおじさんは、古いアパートでねこやインコと食事をするんだらうな、ピシッとした恰好の男の子はお城で召使いに囲まれて暮らしているのかな、なんて想像をしながら。

実はマイロが向かうのは刑務所。お母さんがその中にいるのです。そしてお城にすんでいると想像していた男の子も同じ場所に向かいます。人は見た目ではわからない。マイロと同時に、読者もはっとさせられます。

<子どもに手渡す時のポイント>

優れた児童文学作品に贈られるコールデコット賞やニューベリー賞などの受賞歴がある作者の絵本。アメリカでベストセラーにもなりました。外見だけで人を判断することはできないということを知り、考えてもらいたい時におすすです。示唆に富んだ作品ですが、ポップな絵柄で気軽に手に取ってもらえると思います。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。